

大会名称: **東日本大震災復興支援
第10回全日本社会人バスケットボール選手権大会**

開催場所: **酒田市国体記念体育館 Aコート**

試合区分: **No. 116 男子 決勝**

期 日: **2014(H26)年11月3日(月)**

主審: **芳賀 聡**

開始時間: **14:40**

副審: **加藤 蒼樹, 小川 裕之**

九州電力		○	28 - 22 17 - 18 32 - 4 14 - 19 - - -					●	和歌山クラブ						
(実業団1)		91						63	(クラブ1)						
NO.	S	選手名	PTS	3P	2P	FT	F	NO.	S	選手名	PTS	3P	2P	FT	F
4		松谷 直人	2	0	1	0	1	4	*	知念 恭平	10	0	4	2	1
6		柚木 毅	-	-	-	-	-	5	*	劉 瑾	15	0	6	3	4
8		岡 隆輔	2	0	1	0	1	6	*	宮村 悠	13	1	5	0	4
9	*	田中 喜陽	6	0	2	2	1	7		中岡 佑太	6	0	3	0	2
12	*	織田 秀司	11	1	3	2	0	8		平 晃知	0	0	0	0	0
14		大野 敬太	0	0	0	0	0	9	*	高崎 雅之	6	0	3	0	2
15		賀来 龍矢	0	0	0	0	0	10		三井 峻輔	-	-	-	-	-
16		村瀬 敦希	0	0	0	0	0	11		宮崎 潤	3	1	0	0	1
21	*	毛利 孝志	14	1	4	3	0	12		高木 智也	2	0	1	0	0
24		中深迫 諒太	13	0	5	3	1	13	*	井上 卓哉	8	2	1	0	2
26		坂本 祐一	0	0	0	0	0	14		柳本 博紀	-	-	-	-	-
30	*	吉満 俊孝	14	4	1	0	1	15		峯尾 守	-	-	-	-	-
33		横山 優王	0	0	0	0	2								
34		佐敷 幸英	-	-	-	-	-								
35		熊谷 駿	2	0	1	0	0								
40		赤星 雄平	7	1	2	0	0								
45		根岸 豪	9	0	4	1	1								
91	*	酒井 祐典	11	0	5	1	0								
コーチ 山口 健太郎 / TEAM								コーチ 江川 宏 / TEAM							
合計			91	7	29	12	8	合計			63	4	23	5	16

S: スターター PTS: ポイント 3P: 3ポイントシュート 2P: 2ポイントシュート FT: フリースロー F: ファール

1P: 両チームハーフコートマンツーマンでスタート。和歌山クラブ、九州電力ともにインサイドを中心にオフェンスを展開。和歌山クラブ#13井上のドライブインで得点するも九州電力も#21毛利、#12織田のドライブインで応戦する。残り5分8-10。九州電力#91酒井が速攻からバスケットカウントを決めるが和歌山クラブ#13井上が3ポイントを決め一進一退が続く。残り3分13-13の場面で和歌山クラブがタイムアウト。九州電力がオールコートマンツーマンをしかけ激しい守備からリズムをつくり徐々にリードを広げるが、和歌山クラブも#5劉の高さ、#4知念のドライブインで食らいつき、22-28で1Pを終える。

2P: 両チームハーフコートマンツーマンでスタート。開始、和歌山クラブ#7中岡がミドルシュートを決めるが、九州電力の堅いディフェンスになかなか得点が伸びない。開始3分で和歌山クラブ#5劉が個人ファール3回目となり交代。勢いに乗った九州電力はファストブレイクで連続得点し、残り6分28-40となったところで和歌山クラブがタイムアウト。再開後、九州電力は和歌山クラブの激しいディフェンスにシュートが決まらず、逆に連続得点を許し、残り3分35-40としたところで九州電力がタイムアウト。その後は両チームがリズムを取り戻し40-45で2Pを終える。

3P: 九州電力は開始3分で#12織田#91酒井#30吉満の連続得点で40-56としたところで和歌山クラブたまたまタイムアウト。和歌山クラブは#5劉のインサイドを中心に組み立てるが得点にならない。逆に九州電力がオールコートマンツーマンでたたみかけ、残り3分44-70と差が広がり和歌山クラブが2回目のタイムアウト。流れは変わらず44-77で3Pを終える。

4P: 九州電力はインサイドの攻撃が機能し得点が決まる。和歌山クラブも#7中岡#5劉が起点となり懸命に追いかけるが差は縮まらない。九州電力は選手を入れ替えながらの余裕のゲーム展開となる。和歌山クラブは#4#5を中心に最後まで攻め続けたが、後半攻守に勝った九州電力が63-91で優勝を決めた。